

## 鹿沼詩友会誌 7月号 寸評資料 2005.9.11 小林守

8月の定例会がお盆に重なり、休会になりましたので2ヶ月ぶりになります。さて、この一年の間書き溜めてきたみなさんの詩作品の中から、まずは恒例の鹿沼市民文化祭文芸部門の作品募集要項に沿って、応募されることを期待しています。締め切りは10月15日です。鹿沼における詩部門の活動の発展のためにも応募総数の拡大に協力をお願いします。詩友会としては新会員の拡大と「OB会員」等の関与する仕組みを作ることが重要な課題です。今後の会の運営や、市民文化祭詩部門の取り組みについてについて、提案いたしたいと思いません。

- 1 仮称「かぬま詩人」又は「かぬま詩草」2005年作品集の発刊について  
年間活動の成果をまとめておくために、詩友会員及び元詩友会員、市内で長年、個人的に詩作活動をなされてきている諸先輩にも作品の寄稿をお願いして、年間アンソロジー的な詩集を作る。(鈴木・布川・澤田・相羽・黒川・小太刀・宮坂・駒橋・矢野・羽山・他詩友会員など)
- 2 今後の詩友会役員と役割分担について  
会長 副会長 会計 監査  
専任講師  
鹿沼市文化祭実行委員会委員・詩部会長  
鹿沼市文化協会役員(理事・文芸部門)
- 3 その他  
詩友会会費について  
文化祭詩部門作品公募と表彰・選者について

### 作品寸評

- 1 ひとり娘 小太刀美恵子

裏庭にひっそり咲く「ひとり娘」という花を、そのまま描ききってください。作品上、「私」に結びつける言葉は必要ありませんね。

- 2 麦秋、そら豆 黒川フミ

詩のねらいは面白いのですが、平板な描写に陥ってしまっているのではないのでしょうか。たとえば、次のような文句で十分ではないのでしょうか。

